



## 寄付金速報 — 2016-17年度もほぼ好調にスタート —

2016-17年度最初の月となる7月の寄付額は約2億1,200万円、前年度と比べて5.3%減（普通寄付金：2.8%減、特別寄付金：11.7%減）、約1,200万円の減少のスタートとなりました。2007年度以降最高額だった昨年度には及ばなかったものの、好調だった2014年度の寄付額とほぼ同額となりました。寄付者の皆様に厚く御礼申し上げます。日本のロータリーが世界に誇る米山奨学事業の継続と発展のため、今後ともご支援ご協力賜りますよう、よろしくお願いいたします。

## 来春採用の奨学生募集がスタート

2017年4月の新規奨学生募集が始まりました。各地区の米山奨学委員会からの報告により決定した指定校は、全国で532校（前年度528校）。指定校からの被推薦者数は1,748人（前年度1,643人）で、この中から新規奨学生585人が選ばれます。

地区奨励奨学金（大学・大学院以外の教育機関在籍者が対象）を導入した地区は13地区で、指定されたのは23校、そのうち初指定は6校でした。また、指定校への要望として、地区独自の選考基準を提示したのは34地区中31地区で、最も多かった要望は「被推薦者の国籍が偏らないように配慮してほしい」、次いで「ロータリー活動への積極性」「日本語運用能力」などが挙げられました。募集要項・申込書は、7月29日に全指定校へメールで案内しました。

※2016学年度採用の指定校や募集要項などの書類は当会ホームページにて公開しています。

## 2016-17年度地区米山奨学委員長対象のセミナーを開催

2016-17年度が始まる直前の6月20日、当該年度の地区米山奨学委員長を対象に、第2回セミナーを開催しました。2012-13年度以降、次期米山奨学委員長セミナーは、「11月または12月」と「5月または6月」の年2回開催しており、後半となる今回のセミナーでは『どんな奨学生を採用し、どのように育てるか』について、講義とグループディスカッション、全体会議、質疑応答が行われました。

グループディスカッションでは、参加者は3グループに分かれ、下記テーマについて、ファシリテーターのリードで50分ずつ議論し、理解を深めました。

1. どのような学生を採用するか 【ファシリテーター】高野孫左門氏（選考委員）
2. どのように育てるか—学友会の重要性 【ファシリテーター】安増惇夫氏（第2700地区理事）
3. 海外応募者対象奨学金制度 【ファシリテーター】前田靖文氏（前・第2680地区評議員）

参加者アンケートでは、今回のセミナーについて、「他地区の選考方法の事例が参考になった。時間、内容を十分に検討したい」「海外応募者対象奨学金の導入を検討してみようと思った」「意見交換の切り口が適切で、ファシリテーターの誘導が上手だった」などのご意見をいただきました。また、「ディスカッションの時間が短く、発言が十分にできなかった」というご意見も多くいただきましたので、今後、改善を検討してまいります。



## 熊本・大分、元気です！ — 第 2720 地区夏季研修会 —

第 2720 地区（熊本・大分）米山奨学委員会が主催する「夏季研修会」が 7 月 23～24 日、杵築市内で開催されました。2 県にまたがる同地区で奨学生が一堂に会するのは、4 月の熊本大地震後初めてのことです。まだ復興への道はスタートしたばかりであるにもかかわらず、奨学生・カウンセラー・地区委員は一人の欠席者もなく、前田眞実ガバナーを驚嘆させました。

緊張感あふれる 1 日目の研修では、ガバナーアドレス、当会理事の岡村泰岳氏の講演、同地区出身で現在、東京米山友愛 RC 会員となった林志英さん（1990-91 / 大分 1 9 8 5 RC）のスピーチにより、人生の目標や奨学生としてのあり方を考えました。夕刻からは、バーベキューで笑顔がはじけました。ロータリアン・奨学生・学友による“米山ガールズ”のフラダンス、母国でプロ歌手の資格をもつ奨学生の歌唱、盛り上げ上手なネパール人奨学生のパフォーマンス——。外国人には物珍しいスイカ割り、キャンプファイヤーなど、盛りだくさんのプログラムでした。2 日目は早朝散歩からスタートし、基調講演、一言スピーチ、グループディスカッションを経て研修会は終了しました。

「元気な熊本、元気な 2720 地区をお見せしたい」、という秋吉実米山部門委員長の意気込みどおり、ガバナー・ガバナー補佐をはじめ、米山に関わるすべてのみなさんの熱気を感じる 2 日間でした。



## ソウルで活躍した関西米山学友会、今年も総会が大盛況

7 月 3 日、関西米山学友会の総会と新奨学生歓迎会が大阪市内ホテルで開催されました。

同学友会総会は毎年、韓国・台湾・タイなどの海外や他地区から多くの参加者が集まる賑やかな総会です。今年は奨学生・学友が約 80 人、ロータリアンやその家族を含めて総勢約 160 人が参加しました。

テーマは「実践躬行」。活動や会計監査報告のほか、今後のイベント案内、大阪市立大学教授による危機管理セミナーがありました。参加者の最大の楽しみは懇親会で、韓国伝統楽器の初心者である奨学生が猛特訓を積んでの合奏、韓国人以外の奨学生・学友による「アリラン」の熱唱、スペインダンスなど、ソウル国際大会の熱気そのままに、会場は大盛り上がりでした。潘振興会長（1996-98 / 奈良大宮 RC）は、「米山学友には境界線がないこと、奨学生のつながりは世話クラブだけではないことを伝えたい。関西ならではのノリを大事にしながら、いつものメンバーだけでなく多くの学友に参加してもらえる会にしていきたい」と、笑顔で振り返りました。



## ソウル国際大会の DVD が完成！



2016 年ソウル国際大会での米山ダイジェスト、「世界に羽ばたく YONEYAMA in SEOUL」が完成しました！ブース、学友合同懇親会、RI 主催学友レセプション、米山史上初の分科会。YONEYAMA が世界に羽ばたく第一歩を収録した 16 分間の映像です。分科会で使用したオープニング映像（3 分間）もご紹介します。HP から視聴できます。また、DVD のご要望があれば無料で送付します。